平成３０年１月２３日　VOL９号　近畿財務局　和歌山財務事務所

CHIHOMEN NEWS

女性が活躍する地方創生魅力発信イベント

～ きらきら女子はばたけプロジェクト in 和歌山 ～

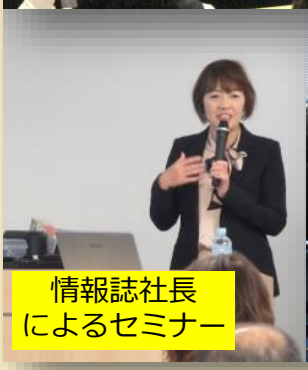
和歌山財務事務所では、地域の特性を踏まえた、地方創生の取組支援を行っています。

今般、和歌山市内に所在する和歌山地方合同庁舎において**「女性が活躍する地方創生魅力発信イベント～きらきら女子はばたけプロジェクトin和歌山～」**を開催いたしました。(29.11.9)

当日は、**地元の情報を若手女性の目線で発信していく活動のプレゼンテーションが３団体から行われ**、またより効果的な情報発信の方法を探るため、**地方情報誌の編集長によるセミナーや、参加女性団体によるワークショップ**が行われ、会場は熱気に包まれました。

今回は同イベントの開催に至った経緯と当日の模様をお伝えします。

地域の若手女性団体によるプレゼンテーション


情報誌社長によるセミナー

女性団体間のワークショップ

１．開催の経緯

きっかけは、平成29年5月に開催した「新宮地域の担い手の共存・共栄のための意見交換会」でした。ここで和歌山県新宮市で活躍する産官金の地域の担い手や、新宮市魅力発信女子部の方が参加されていましたが、ここで和歌山県下には、**女性が中心となり、地域の魅力発信のために活躍している団体**がいくつも存在することが分かりました。そこで8月に移転する新庁舎で、これら女性団体に集まってもらい、それぞれの取組を発信する場を設定することで、PR活動の支援ができないかと考えたことが始まりです。

◎ 課題の把握

これらの団体からお話しを聞かせていただいたところ、以下の大きな２つの課題をはじめ、様々な課題が確認できました。

① 私たちの取組を、もっと多くの人たちに知ってもらいたい
② 地域の魅力を、どのように発信していけば効果的か

◎ 課題解決に向けて

このような声を踏まえ、同所に在籍するＴＥＡＭちほめんを始めとする若手職員を中心に検討を行いました。

課題①「私たちの取組を、もっと多くの人たちに知ってもらいたい」

⇒ 女性が中心となり活躍するグループに集まってもらい、ＰＲする機会を設ける企画ができないか、検討しました。
ちょうど当所が市内中心部に新設された和歌山地方合同庁舎に移転したところであったため、**同庁舎をＰＲの場として提供することで、高い情報発信力が確保できるもの**と考えました。

課題②「地域の魅力をどのように発信していけばよいか」

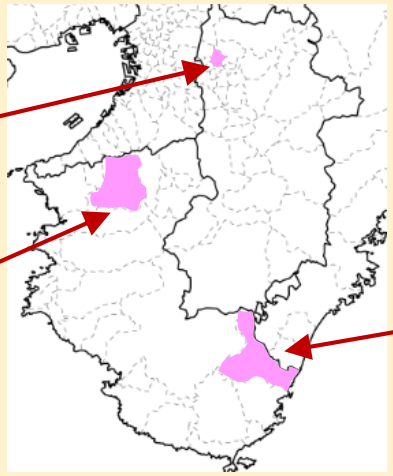
⇒ **情報発信の専門家である、㈱読売奈良ライフの朝廣佳子社長にご相談させて頂いたところ、今回の企画にご賛同頂き、イベントへの参加に加え、「情報発信」をテーマにしたセミナー**を行っていただけることになりました。

(※朝廣社長は、H18年～H28年まで奈良財務事務所の財務行政モニターを務めていただいておりました)

なお、課題①に対応したプレゼンテーションを行う団体としては、和歌山県の新宮市・紀の川市に所在する団体のほか、朝廣社長から奈良県の斑鳩町にも女性が活躍している団体があることをお聞きしたため、奈良財務事務所が訪問のうえ、今回の企画を説明したところ、参加を快諾いただきました。

このように、和歌山県と奈良県で活躍する（キラキラした）女性団体が、情報発信していくためのお手伝いができればと願い、「女性が活躍する地方創生魅力発信イベント～きらきら女子はばたけプロジェクトin和歌山～」と命名したイベントを開催することとなりました。

・斑鳩町商工会女性部
（奈良県斑鳩町）



・魅力発掘×きのかわ女子（和歌山県紀の川市）

・新宮市魅力発信女子部
（和歌山県新宮市）

2．当日の様子

今回の企画は、地域で活動している女性グループによる、魅力発信プレゼンテーションやセミナーであることから注目を集め、和歌山県下の企業経営者、経済団体を含む各種団体、自治体、金融機関など**約50名と数多くの方々にご参加いただきました。**

☆今回の企画のポイント

① **地域で活躍する女性グループに焦点を当て、当該女性団体が一同に会し、マスコミ等の前で広く発信する機会を設けたこと**

② **情報発信の効果的な手法を学んでいただくため、専門家を招いたセミナーを実施したこと**

③ **県を超えた女性グループを招聘し、特長や悩みを共有するワークショップの場を設けたこと**

【第一部：プレゼンテーション】

冒頭、和歌山財務事務所の三好所長から、「各地域で地元を盛り上げ、地域の魅力を発信している方々がいることをお聞きし、**財務局・財務事務所が持つ、産・官・金のネットワークを活用**し、ぜひ応援したいと思い、このイベントを企画した。イベントをきっかけに引き続き地域活性化につなげてほしい。」と挨拶を行いました。

その後は順次、参加団体からプレゼンテーションを行いました。

<新宮市魅力発信女子部（新宮市）> <魅力発掘×きのかわ女子（紀の川市）> <斑鳩町商工会女性部（奈良県斑鳩町）>

＜各団体のプレゼンの模様＞

新宮市魅力発信女子部

◎組織発足のきっかけ

「女性が自由に働き、やりたいことができる幸せな街」
この思いを実現し地域活性化に繋げるためには、今ある地域資源を女性目線で発信していくことが必要ではないか、という思いから発足。
メンバーを公募し、当初は民間から25人、市職員10人の計35人で構成。平均年齢33歳。

◎取組状況

①Ｈ27年から活動をスタート。女子部のメンバーで情報を出し合い共有した「新宮市で活躍する魅力的な女性」の取材記事や、女子部で製作した「新宮の宝」を発信する企画特集ページを掲載した、**「新宮人」というサイトを立ち上げて、魅力を発信。**

⇒　サイトの訪問者数は開設後1ヶ月で4,100と、予想以上で多くの市民も閲覧。
「新宮人」のサイトを観た多くのメディアから取材も受けるなど好評。

②H28年は情報発信だけでなく、地元の企業・事業者や団体の支援や明治大学女子大生などの意見も取り入れた事業を実施。

・女性観光客をターゲットにした新宮の名所などを紹介する新宮絵本箱や新宮に旅するブックカバーなどの制作。
・流行のグランピングテントを使用した**「新宮ピクニック」**の開催。
⇒　新宮熊野で味わう「ちょっとゴージャスな大人のピクニック」。
自然の中で地元の食材を使用したイタリア料理などを販売。
若い世代の女性が多数参加。
（市のイベントに初めて参加した方も多数）
・地元商店街を女性がハイヒールを履いてリレー競争を行う
「新宮ハイヒールラン」を開催。市内外から約800人が参加。などなど

新宮市魅力発信
女子部の思い

⇒　**新宮を知ってもらい、交流人口の増加や移住定住等に向けた女性ならでは取組みに注力。市内の女性同士の新たなネットワークができたことが大きな成果！**

魅力発掘×きのかわ女子

住いも甘いも紀の川市

紀の川ぷるぷる娘

◎組織発足のきっかけ

今ある地域資源を活かした戦略的ＰＲを行い観光戦略、移住定住につながるプロモーションを目指す。

⇒　女性に響く資源が紀の川市には多いことから、10代～30代の女性の情報収集力や発信力を活かした魅力発信を行うために、地元女子高校生、地元大学生、市職員が一緒になって、「魅力発掘×きのかわ女子」を結成！

「フルーツ」※と「住」をブランドコンセプトに、キャッチコピーは“住いも甘いも紀の川市”に。

※キウイ、はっさく、もも、いちご、いちじく、かき

◎取組状況

①魅力発掘×きのかわ女子によるワークショップ

⇒　女子会を定期的に開催。10代～30代が交流し、地域の魅力を発掘。

第１回：若い女性が日常的に使うノベルティグッズの作成。
ガーゼタオルとマスキングテープを製作し、ＰＲグッズとして配付。

第２回：観光マップにはない地域の魅力スポットの掘り起こし。

第３回：第２回で出た魅力スポットを参加者自身が回るバスツアーを開催（11/12）。
同時に紀の川グルメを詰め込んだお弁当で「きのかわピクニックランチ」を実施。

②「トラベルガールズフェスタ2017」に出展（10/30@大阪市シティプラザ大阪）

⇒　旅に関心がある女性が集う（800人）イベントに、ブースを出展。
「魅力発掘×きのかわ女子」のメンバーもスタッフとして参加しＰＲ！！
日帰りフルーツ旅を宣伝のほか、「柿でハロウィン」、ドライフルーツの試食などを実施。ブースには530人の来訪があり、その模様をインスタグラムなどで発信してくれる方も多数。
そのほか、フルーツ王子とも言われる中野瑞樹さんのセミナーも実施し、聴講が130人となるなど大成功。

③紀の川市フルーツ満喫❤バスツアーを開催（11/25）

⇒　県外在住の女性を招待し、市内のフルーツ巡りを実施。
みかん狩り、フルーツ寿司＆バーベキュー、フルーツ足湯体験のほか、
フルーツ活動家がおいしいフルーツの見分け方をレクチャー。
参加者の情報発信力に期待！！

魅力発掘
×
きのかわ女子
の思い

⇒　”魅力発掘×きのかわ女子”を中心に様々なイベント企画！

今ある地域資源を女性の情報収集力や発信力を活かし、

観光戦略、移住定住へつなげる！

斑鳩商工会女性部

◎組織について

女性経営者及び経営者の配偶者・親族から組織されており、部員は80歳を超える方も在籍しており、現在16名。
経営者の配偶者の割合が高く、事業をしている女性同士が支え合っていけるような取組を目指す。

◎取組状況

①高校生ビジネスグランプリの開催を企画

（応募期間：平成29年7月3日～8月31日　審査会：平成29年12月17日）

⇒　世界遺産の法隆寺があるが、観光客は右肩下がりであり、地域経済の衰退が進んでいる状況。現状打破のためには、商売をやっている人が元気にならないと町の活気は取り戻せないと考えており、次世代の若者の育成を重要視している。また、若者が今後、社会に出て活躍するなかで自ら考え、行動する力を養い、加えて、商工会のメンバーが目を通すことで、商売により近い形で学んでもらうことを目的としている。

⇒　表面的なものではなく、精神的なものとして次世代に残せるものがやりたい。商売の中での、相手の気持ちになることや、継続させていくことの難しさを伝えていきたい。

②独自商品の開発

⇒　女性部として地域のイベントに参加していたが、組織のＰＲが不足していた。
地域の素材である**トマトを活かした無添加のレトルト商品を開発**し、地域イベントなどでこれを使ったパスタなどを提供することで、積極的にＰＲ。

三美（さんび）そうす

斑鳩商工会女性部
の思い

⇒　ビジネスグランプリを通じ、女性の目線から事業（商売）について、若い世代と接し教えてくことで、地域活性化の第１歩とし、地域を育てていきたい。

【第二部：セミナー】

第二部として、奈良県の地域情報誌の編集長を務めておられる、㈱読売奈良ライフの朝廣社長にご講演いただきました。

ご自身が取り組まれた「なら燈花会」の企画からイベント実施までの苦労話、そこから朝廣社長が感じた人を呼ぶためのポイントや情報発信を行っていくうえでのポイント、マスコミとの関係づくりなどについて具体的にお話しいただきました。

＜講演概要＞

・大好きな奈良にたくさんの人を呼び、たくさんの方が喜んでほしいという気持ちを持ちながら、市民の方々と一緒に、なら燈花会、平城遷都祭など様々なイベントを行ってきた。

・人を呼び込むためには、**見て感動する、何かやってみて楽しい、食べて感動する、体験して感動するなど五感に訴えるものが必要**。特に、今の観光では、観光地に行くというより、地元の人が食べるもの、体験するもの、そういったものを体験したい、食べたい、見たいという観光に変わってきており、**旅のストーリー性が必要。**

・**戦略的情報発信が必要**。広報責任者を決めいつ、どこで、誰が何を、何で、どうするのか、そして何を発信したいのか、ストーリーはあるか、イベントのターゲットは誰なのかと、**ターゲットに合わせた情報発信**を考え、いつでも情報発信できるように、マスコミ関係先のリストを作っておき、マスコミをうまく活用する。そして毎年恒例のものであれば、**何が以前と違うのか、去年と違うところはどこかを強調**する。

・新聞の購読者は減っているが、まだまだ８割ぐらいは購読しており新聞記事は客観的かつ編集局の記者が選んで書くので信頼性が高い。

・**これからはスマホ対応のホームページを。**作っただけでは全然見てもらえないので、ＳＥＯ対策やリスティング広告を打つなど、そのほかいかにＳＮＳと連動させ多言語化していくことが今後重要。

・ＳＮＳはそれぞれメリット・デメリットがあるので、うまく使い分け、情報発信することが重要。

・キーパーソンを探す。ばかもの、よそもの、若者、女性がキーマン。特に女性の能力は高く、女性が経済を握っていることは間違いない。女性には柔軟な発想があるからではないかと思う。

・どうしても何かをやり始めると周りが見えなくなるので、**自分の地域を外から見る客観的な目を持つこと**。それから、いろんなピンチも全部チャンスに変えていく気持ちで、失敗をおそれずやり切る覚悟を持つ。

・常に原点に立ち戻って目的意識を共有して取組み続ける。

・ヒト・モノ・カネ・情報という四つの資源を大切にし、**良い企画ができれば、机上でなく現場第一主義。**

（最後に）
・最も大事なのは行動すること。まず、失敗をおそれずに一歩を踏み出すことで周りが変わっていき地域が変わる。**できるかできないかじゃなくて、やるかやらないか。**

【第三部：ワークショップ】

第三部では、朝廣社長とプレゼン実施団体などで、ワークショップを行いました。

朝廣社長からは、各女性グループが素晴らしい取組をしているとのコメントや今後のメディアに対するＰＲ方法などのアドバイスもあり、各団体の益々の活躍につながることが期待できそうです。

<ワークショップ参加メンバー>
- **㈱読売奈良ライフ代表取締役社長　朝廣佳子**
- **新宮市魅力発信女子部**
- **魅力発掘×きのかわ女子**
- **斑鳩町商工会女性部**
- **弐代目はしもと女子部**
  （オブザーバー）
- **和歌山財務事務所長　三好雅幸**
- **奈良財務事務所長　中嶌久光**
- **和歌山財務事務所　高山菜摘（司会）**

＜参加者の主な発言内容＞

＜新宮市魅力発信女子部＞

・ずっと新宮に住んでいる人は元々交流の幅が広いが、Ｕターンの人、育休中の人などそれぞれのツテを通じてメンバーが広がっている。
・メンバー全員が集まって企画を進めていくことは難しいが、企画ごとにメンバーが集まったり、ＳＮＳなどを活用しメンバーで随時情報共有を行っている。
・明治大学のフォーラムで活動報告の場をいただき、女子部の取組の紹介や物販を実施。県外へのＰＲは今後も取組みたいが、まずは「新宮人」（ＨＰ）で市民にＰＲしたい。
・ハイヒールランの出場者はほとんど地元の方で、3人チーム×15組の45名が参加。商店街イベントにあわせて開催することで、集客の相乗効果がありイベント当日は県外からの観光客含め、800人ほど集まり盛り上がった。今回は成人女性が要件。男性が女装して出場したいという希望が出ていたので、今後検討したい。おそらくハイヒールランは新宮以外でやっていないので、いつか新宮市でハイヒールランの全国大会を開催できればと思っている。
・市の事業として活動しているが、今後の活動資金の確保をどうするのかという課題がある。
・「新宮ピクニック」は大きなイベントで今回の事業では女子部の象徴的なものとなった。地元の事業者や団体に多大な協力をしてもらっている。

＜弐代目はしもと女子部＞

・市長から「殺風景な橋本駅前を女子目線で何とかしてほしい」という指示のもと、30代までの女性職員を中心に発足。
・予算が必要な事業は却下されたが、無地のベンチを自分たちでデザインし、４つの手作りベンチを製作し設置した。
・その後、自主研究グループとして有志の職員５名が弐代目はしもと女子部として非公認で活動。名刺に「なんでもやります」と記載し活動している。
・現在、橋本市の秘湯、やどり温泉のＰＲに取組んでおり、発案したものを、宿にも取り入れてもらっている。そのなかで、「売店で何を販売したらよいか」を考えており、やどり温泉の集客アップを目指しているところ。
⇦意見交換参加者からお洒落な手ぬぐいや現地に住む野生のシカをモチーフにしたグッズ販売といった解決策につながる具体的なアイデアが次々と出されました。

＜朝廣社長＞

・和歌山県内で各団体がこんなにも素晴らしい事業をされていると感心、感動した。
・新宮市魅力発信女子部も魅力発掘×きのかわ女子も面白い取組みだが、和歌山県内でのＰＲが中心で、あまり県外に知られていないのがもったいない。大阪など県外のメディアに取り上げてもらうよう、もっとＰＲしてもよいのではないか。
・資金の問題については、ふるさと納税のほか、クラウドファンディングを利用するのもよい。

＜斑鳩町商工会女性部＞

・各団体のプレゼンを聞いて、女子力が高いことに驚いた。普段はどうしても商工会青年部や商工会本体と比較しながらの活動なので、男子に負けたくない思いが強すぎた。今後はもっとかわいらしくＰＲして、若い女性の入部にもつなげていきたい。
・息の長い女性部であるために子育て世代の女性にも加入してもらいたいと思っており、頑張っているところ。
・商工会女性部であるので、商業・経済にメリットがある活動が求められている部分もある。商工会から独立した別団体にした方が動きやすいこともあるが、少しでも良い活動を続けていきたい。

＜魅力発掘×きのかわ女子＞

・魅力発掘×きのかわ女子は紀の川市の委託事業。自分たちでブランドコンセプトを考えて、それをベースに事業を行っている。
・学生とも協力して、ワークショップなどを実施。今流行っているものに敏感な若い人の意見を積極的に取り入れている。
・和歌山県の最南に位置する新宮市と最北に位置する紀の川市、橋本市でタッグを組んでも面白い。また、橋本市は斑鳩町のある奈良県にも接しており、きれいとかわいいで一緒に頑張りましょう！

【第四部：交流会】

第四部として、朝廣社長とプレゼン実施団体、その他の参加団体の方々を交え、交流会を実施しました。主催したイベントに関する苦労話等について、参加者同士が気さくに意見交換するなど、終始和やかな雰囲気で交流が進んでいきました。

以下、ご参加いただいた方々の交流会での声になります。

ハイヒールランは、メンバーが居酒屋で飲んでいる際に、ふと浮かんだ企画だった。イベントは、**会議などで難しく考えるよりも、楽しく過ごしているときに思いついた企画の方が案外良い**ということもあるのかもしれない。

グランピングのイベントでは、**「女子力」にこだわり抜いた。**紙皿一つにしても白い無地は使わないようにするなど、全てに時間と労力をかけて準備をした。限られた予算の中で様々なものを手作りしたり自分のものを持ち寄ったりした。

近畿財務局がこのような地方創生のイベントを主催していることに驚いた。
最近では、私の住んでいる地域の市役所でも様々な地方創生の取組をしており、役所のイメージが変わってきている。

最近は**販売ツールとしてインターネットの活用もある。**特に若い世代の事業者ではインターネットやSNSを利用して販売促進につなげているところが多い。

女子部で活動する時専用の名刺を作成している。裏面には黒字に白文字で「アイデア満載 何でもやります」と書いていて興味を持ってくださることも多い。話のきっかけにもなり、盛り上がる。

３．最後に

今回のイベントは、女性が中心となり町の魅力発信のために活動している団体に、それぞれの地域の魅力や各種取組状況をPRしていただくことで、県内の地域活性化に繋げていただきたいという思いで開催しました。

当日は、報道関係者、和歌山県下の企業経営者、経済団体を含む各種団体、自治体、金融機関など約50名が参加し、各団体とも広くＰＲを実施することができました。また、参加者にご協力いただいたアンケートでは、**「各地域の魅力が伝わり、女性が活躍する新しい地域活性化プランが聞けて良かった。」**、**「他地域の取組みを知れたほか、団体同士の繋がりができた。朝廣社長のセミナーも大変参考になり、今後の活動に活かすことができればと思った。」**といった声をいただきました。

当初団体から聞かれた「もっと、私たちの取組を、多くの人たちに知ってもらいたい」、「地域の魅力をどのように発信していけばよいか」といった課題解決のための糸口となったのであれば幸いです。また、このイベントをきっかけとして、発表いただいた団体はもちろん、ご参加いただいた事業者・金融機関・自治体等が連携し、地方創生に繋がる事業が展開されることを期待しています。そしてそのためにも、和歌山財務事務所でも引き続き新たな支援企画の検討に取り組んでいきたいと思います。

新聞やテレビをはじめとする
各種メディアに取り上げてい
ただきました！

テレビ
ＮＨＫ和歌山
テレビ和歌山
Ｊ：ＣＯＭ

新聞社・情報誌
わかやま新報
読売新聞
熊野新聞
リビング和歌山

ラジオ
和歌山放送
ＦＭマザーシップ

今回の企画でお世話になった方々、本当にありがとうございました。
㈱読売奈良ライフ代表取締役社長　朝廣佳子様
新宮市魅力発信女子部のみなさま
魅力発掘×きのかわ女子のみなさま
斑鳩町商工会女性部のみなさま
弐代目はしもと女子部のみなさま

TEAMき・しゅう（輝集）
三好和歌山財務事務所長、清田総務課長、古谷財務課長、後理財課長、宮下管財課長、河野係長、出口係長、太田調査官、松下係員、高山係員、久富係員、松本係員